

令和4年度長沼町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町農業は、食料の安定供給を基本に農地の保全と豊かな地域社会の形成など多様な役割を果たしながら、町の基幹産業として発展してきた。

しかしながら、農産物価格の低迷や高齢化による農家戸数の減少など地域の農業情勢は厳しく、長期的な視点における農業政策が求められている。

また、環境問題が顕在化する中、消費者の安全・安心な食料に対する関心の高まりとともに、自然環境の保全や美しい景観形成など農業の持つ多面的機能が注目されている。

本町の耕地面積は 10,834ha（水田 8,634ha、畑 2,200ha）、水田における主食用水稲以外の作物の作付は 7,271ha、84.2% となっている。本町農業を支えてきた水稻作付が減少し、麦・大豆等の畑作が増加するとともに、野菜や花き、和牛繁殖など経営の複合化が進んでいる。

令和3年度、経営所得安定対策に加入している販売農家は 544 件で、効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者は 492 件となっている。

本町農業の課題は、過去に水田地帯であったことに由来する『土質』である。

長沼町の大半の農地は、水はけの悪い粘土質である。気象条件が平年並みであれば、悪影響を及ぼすことは少ないが、春先の融雪の遅れ、長期的な降雨と曇天、近年のゲリラ豪雨と呼ばれる突発的・局所的な集中豪雨などは、ほ場の水はけの能力を超過し、ほ場に水が長く停滞することとなる。ほ場に停滞した水は、生育不良や罹病などの作物への直接的な被害と、ほ場の乾燥が進まず適期作業ができないことによる2次的な被害を発生させ、収量・品質の低下を招く。

ほ場の透排水性の改善は、旧来からの課題である。粘土質の土壤自体を変えることはできないため、各方面から支援を受けながら、様々な湿害対策に取り組んできた。そしてその結果として、特に麦大豆の収量性・品質が顕著に向上し、農業所得の増大につながった。粘土質の長沼における麦大豆の産地化は、継続的な湿害対策の成果である。

しかしながら、土壤が本質的に粘土質であるため、麦大豆が本作として生産されている道内他産地のような高品質・高収量を安定的に確保することは困難である。農業所得の安定のためには、より効果的な湿害対策を今後も継続的に実施していかなければならない。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

長沼町は大消費地の札幌に近く、また新千歳空港・苫小牧港へのアクセス路が良く、物流面に大きな立地優位性をもつ。この優位性を最大限に活用するため、高収益作物については、作付面積の拡大と需要や市況に即応した生産流通による付加価値向上を目指す。

土地利用型作物は、大ロットの安定供給産地として増収と高品質化を進め、ICT導入や団地化によるコストダウンを図ることで収益力を強化していく。また、土壤物理性の改善のために地力増進作物や子実用とうもろこしの導入を検討する。

高収益作物等の導入に向けては、水田農業高収益化推進計画の策定及び推進体制の構築をはかる。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

長沼町において、水稻生産を取り入れたブロックローテーションおよび畑地化の取組は、長期的な計画に基づいて取り進める。

ブロックローテーションについては、ほ場の透排水性の低下が課題である。水稻生産の代かき作業を行なった場合、粘土質の土壤をかき混ぜることで土の粘性が高まり、ほ場の透排水が低下し、翌年以降の生産活動に大きな制限がかかる。翌年作はこの対策として、従来の湿害対策に加え、地力増進作物や子実用とうもろこしの作付を行ない、土壤物理性の改善を図る。また、代かき自体を実施しない直播栽培の普及と生産技術向上を平行して進める。

畑地化の取組については、農業所得の確保が課題である。長沼町において、持続的に畑地での麦大豆の生産活動を続けていくためには、さらなる增收と高品質化による農業所得の向上が不可欠である。そのため、町やJAの独自事業等を活用しながら継続的に湿害対策に取り組むよう啓発していく。また、需要に応じた生産を強化し、品代の向上を図ることも急務である。土壤条件などにより、さらなる增收・高品質化・品代向上が見込めない場合には、畑地化によって農業所得が低下するおそれがあることから、畑地化の取組は慎重に検討することとする。

以上のことから、長沼町における畑地化とブロックローテーションの取組については、次のとおり整理する。

- ① 土壤条件などにより畑地化が困難なほ場は、ブロックローテーションに取り組みながら湿害対策等を進め、增收と品質向上を目指す。
- ② 高品質・高収量を安定的に達成し、農業所得を十分に確保できるほ場は、生産性をさらに向上させるために畑地化を推進する。
ただし、畑地化によって農業所得が低下するおそれがある場合は、これを進めない。
- ③ 土地利用型作物の生産に適さない中山間部においては、野菜・果樹などの高収益作物の生産を進め、農業者の長期的な営農計画に基づいた畑地化の取組の導入を検討する。
- ④ ブロックローテーションに適さないほ場は、畑地化の導入を検討をする。
- ⑤ 畑地化の取組を進めるにあたっては、「人・農地プラン」により描かれた地域の将来像や、担い手の農業経営改善計画、効率的な土地利用に配慮する。

また、産地と実需者の連携に基づいた実需者ニーズに応えるための低コスト生産の取組や、作付の団地化と営農技術の導入による産地の生産体制の強化・生産の効率化を図る取組、環境保全型の高付加価値生産の取組などを進める。

水田活用の直接支払交付金の交付対象水田は、水田機能と輪作体系の状況を農業者に定期的に確認した中、農業者に長期的な営農計画の樹立を促す。同交付金の見直しにあたっては、新たに展開していく水田農業が長沼町の実情を踏まえた仕組みとなるよう、関係機関・団体と連携し、オール北海道の一員として対応していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の需要量が減少する中、本町の水稻面積は水田麦・大豆の作付拡大により減少し続けている。ブロックローテーションに取り組む復元田においては、高品質安定生産を啓発し、需要に応じた米生産を進めていく。

品種別作付は、「ななつぼし」46.3%、「ゆめぴりか」38.9%、「きらら397」7.0%となっている。「ゆめぴりか」や「ななつぼし」の良食味米と減農薬栽培に適した「きたくりん」、また、業務用米として疎植栽培に向く「そらゆき」などは、単収の向上を図りながら実需者ニーズに対応した生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料工場や、畜産農家等から安定的な供給が求められており、今後においても需要に応じた生産を推進する。

イ 米粉用米

現状、作付計画はないが、実需者や生産者の意向を踏まえた取組とする。

ウ 新市場開拓用米

現状、作付計画はないが、実需者や生産者の意向を踏まえた取組とする。

エ WCS用稻

畜産農家との契約に基づく生産を基本に生産者の意向を踏まえた取組とする。

オ 加工用米

実需者や生産者の意向を踏まえ、作付を推進する。また、低コスト化に向けて「疎植栽培」・「直播栽培」の栽培技術を向上させ、移植栽培と同等な収量を確保できる技術の確立を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 小麦

水田麦の安定化に向けて、基本技術の徹底と収穫体系の改善により収量の向上に取組んできた。しかし、近年の気象条件による収量の年次変動が大きいことから、パン・中華めん用向け品種の検討、用途ごとに求められる品質確保が重要である。

作付品種は、日本めん用が61.9%、パン・中華めん用が38.1%となっている。

農業者の収益向上に向け収穫後の野菜の作付を推進する。

イ 大豆

水田大豆を主体として作付面積は全道一である。消費者の安全・安心志向により国産大豆の需要が高まる中、契約栽培の取組みによって面積が拡大してきたが、輪作等を考慮すると大幅な面積拡大にはならないことから、単収アップによる生産量の拡大を目指す。

作付品種は、大粒とよまさり75.2%、小粒ユキシヅカ14.3%、その他10.5%となっており、実需者ニーズに即した高品質生産が重要である。

ウ 飼料作物

永年性牧草を主体に作付面積は横ばい傾向で推移している。今後においても畜産

農家への供給契約を基本に取り進める。

飼料用とうもろこしについては、深根性による土壌の物理性の改善が見込めるため、輪作体系上重要な作物と位置づける。

(4) そば、なたね

近年作付面積は横ばい傾向で推移している。そばは、脱粒等の被害による単収変動が大きく、契約数量の安定生産のためには適期収穫と乾燥調製による品質向上が必要である。

(5) てん菜

輪作体系上の重要作物と位置づけしているが、生産者の高齢化や規模拡大に伴う労働力不足などにより作付面積が減少している。また、安価な加糖調整品や人工甘味料の需要増加により、砂糖消費量は全国的に減少傾向にあることから、需要に応じた生産を図る必要がある。

(6) 小豆

経営所得安定対策等の実施により、他品目への作付転換により面積が減少している。

(7) 雜穀

子実用とうもろこしによる食用供給が行われている。契約栽培による需要に応じた生産を推進する。

(8) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜・ばれいしょ

都市近郊という立地条件の中、ばれいしょ、たまねぎ、ながねぎ、ブロッコリーなどの露地野菜やトマト、きゅうり、いちごなどの施設型野菜など、多品目野菜の作付を推進する。複合経営による所得拡大を図る。

イ 花き・花木

冷涼な気候と地理的優位性を活かし道内外への安定出荷と、産地表示による需要拡大を図る。また、花育活動に取組むなど花き生産振興を図る。

ウ 果樹

都市近郊における観光農園や直売所販売など、消費者ニーズに即した多品目の果樹栽培に取組むなど、地域活性化に向けた果樹振興を図る。

(9) 耕畜連携

ア わら利用

飼料用米（わら専用稻含む）作付及びわら利用による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組みを推進する。

イ 水田放牧

飼料作物作付及び水田放牧による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組みを推進する。

ウ 資源循環

飼料作物等の作付及び堆肥散布による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組みを推進する。

(10) 二毛作・二期作

農地の有効活用を図るため、二毛作・二期作の取組みを推進する。

(11) 地力増進作物

復元田での作付による土壤物理性の改善など、ブロックローテーションへの組み入れを進める。

ただし、地力や土壤物理性が十分に確保されたほ場においては、収益性向上のために販売作物の生産を優先し、地力増進作物の作付は推進しない。

このことから、令和4年度の地力増進作物に係る産地交付金の追加配分は要望しないこととする。

5 作物ごとの作付予定面積

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 長沼町地域農業再生協議会の構成員一覧を添付。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等	当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち二毛作	うち二毛作	うち二毛作	うち二毛作
主食用米	1,362.2		1,239.7		1,260.0
備蓄米	0.0		0.0		0.0
飼料用米	179.1		230.9		500.0
米粉用米	0.0		0.0		1.0
新市場開拓用米	0.0		0.0		3.0
WCS用稻	150.5		171.9		240.0
加工用米	104.6		192.2		200.0
麦	2,967.2		3,105.2		2,900.0
大豆	2,091.5		1,970.0		1,900.0
飼料作物	545.5	145.6	529.0	140.0	400.0
・子実用とうもろこし	141.9		162.2		206.5
そば	42.6	126.0	50.0	120.0	35.0
なたね	7.3		25.9		20.0
地力増進作物	0.0		10.0		100.0
高収益作物	693.4		706.1		710.0
・野菜	667.1	53.0	678.3	50.0	680.0
・花き・花木	17.7		18.9		20.0
・果樹	8.6		8.9		10.0
・その他の高収益作物	0.0		0.0		
その他	66.3		49.9		55.0
・てん菜	48.3		34.1		35.0
・小豆	14.6		15.3		15.0
・雑穀	3.4		5.0		5.0
畠地化	0.0		0.0		50.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	麦・大豆	麦・大豆增收対策助成	作付面積 収量	2021年度 麦 : 2,967ha 大豆 : 2,091ha 2021年度 秋小麦 : 587kg/10a 春小麦 : 380kg/10a 大豆 : 293kg/10a	2023年度 麦 : 2,900ha 大豆 : 1,900ha 2023年度 秋小麦 : 600kg/10a 春小麦 : 370kg/10a 大豆 : 300kg/10a
2	てん菜	てん菜增收対策助成	作付面積 収量	2021年度 48ha 2021年度 7.7t/10a	2023年度 35ha 2023年度 7.2t/10a
3	小豆	小豆增收対策助成	作付面積 収量	2021年度 14ha 2021年度 351kg/10a	2023年度 15ha 2023年度 245kg/10a
4	飼料用とうもろこし	飼料用とうもろこし 增收対策助成	作付面積 収量	2021年度 141ha 2021年度 959kg/10a	2023年度 150ha 2023年度 1,100kg/10a
5	雑穀	雑穀增收対策助成	作付面積 収量	2021年度 3ha 2021年度 721kg/10a	2023年度 5ha 2023年度 1,100kg/10a
6	野菜・花き・果樹	高収益作物加算1	作付面積	2021年度 690ha	2023年度 797ha
7	花木	高収益作物加算2	作付面積	2021年度 3ha	2023年度 3.5ha
8	そば	そば生産基盤	作付面積 収量	2021年度 42ha 2021年度 85kg/10a	2023年度 35ha 2023年度 72kg/10a
9	なたね	なたね生産力強化	作付面積 収量	2021年度 7ha 2021年度 322kg/10a	2023年度 20ha 2023年度 315kg/10a
10	【二毛作】 白菜・ブロッコリー	麦後野菜振興助成	作付面積	2021年度 53ha	2023年度 65ha
11	飼料用米	わら利用助成	作付面積	2021年度 179ha 2021年度 61ha	2023年度 500ha 2023年度 35ha
12	飼料作物 (飼料用とうもろこしは含まない)	水田放牧助成	作付面積	2021年度 403ha 2021年度 22ha	2023年度 435ha 2023年度 46ha
13	飼料作物・WCS用稻	資源循環助成1	作付面積	2021年度 696ha 2021年度 332ha	2023年度 720ha 2023年度 300ha
14	【二毛作・二期作】 飼料作物	資源循環助成2	作付面積	2021年度 195ha 2021年度 159ha	2023年度 300ha 2023年度 285ha
15	【二毛作・二期作】 そば・なたね	二毛作・二期作助成	作付面積	2021年度 126ha 2021年度 2.2%	2023年度 200ha 2023年度 8.7%
16	【二毛作・二期作】 飼料作物	二毛作・二期作助成	作付面積	2021年度 195ha 2021年度 4.7%	2023年度 300ha 2023年度 11.3%
17	【基幹作物】 そば・なたね	そば・なたね助成	作付面積	2021年度 49ha	2023年度 55ha
18	新市場開拓用米	新市場開拓用米	作付面積	2021年度 0ha	2023年度 3ha
19	飼料用米・米粉用米	複数年契約加算	作付面積・数量 取組面積・数量	2021年度 飼料用米 : 179ha・ 1,156t 米粉用米 : 0ha・0t 2021年度 飼料用米 : 106ha・725t 米粉用米 : 0ha・0t	2023年度 飼料用米 : 500ha・ 2,500t 米粉用米 : 1ha・5t 2023年度 飼料用米 : 50ha・250t 米粉用米 : 1ha・5t

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名: 北海道

協議会名: 長沼町地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦・大豆增收対策助成	1	5,300	小麦、大豆	排水対策、効果的な追肥等
2	てん菜增收対策助成	1	31,700	てん菜	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
3	小豆增收対策助成	1	24,100	小豆	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
4	飼料用とうもろこし增收対策助成	1	12,000	飼料用とうもろこし	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
5	雑穀增收対策助成	1	12,000	雑穀	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
6	高収益作物加算1	1	27,300	野菜・花き・果樹	高収益作物の作付
7	高収益作物加算2	1	18,700	花木	高収益作物の作付
8	そば生産基盤安定対策	1	3,800	そば	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
9	なたね生産力強化	1	2,500	なたね	排水対策、土壤診断に基づくpH矯正等
10	麦後野菜振興助成	2	3,800	(二毛作)白菜・ブロッコリー	麦収穫後の白菜・ブロッコリーの作付
11	わら利用助成(耕畜連携)	3	11,900	飼料用米	3か年以上の利用供給協定の締結等
12	水田放牧助成(耕畜連携)	3	11,900	飼料作物(飼料用とうもろこしは含まない)	適正な密度での放牧等
13	資源循環助成1(耕畜連携)	3	11,900	飼料作物・WCS用稻	3か年以上の利用供給協定に基づく堆肥散布
14	資源循環助成2(耕畜連携・二毛作)	4	11,900	基幹作後の二毛作(二期作)の飼料作物	3か年以上の利用供給協定に基づく堆肥散布
15	二毛作・二期作助成(そば・なたね)	2	7,600	(二毛作・二期作)そば・なたね	二毛作そば・二毛作なたねの作付
16	二毛作・二期作助成(飼料作物)	2	3,000	(二毛作・二期作)飼料作物	二毛作飼料作物・二期作飼料作物の作付
17	そば・なたね助成	1	20,000	そば・なたね	そば・なたねの作付
18	新市場開拓用米取組拡大助成	1	20,000	新市場開拓用米	新市場開拓用米の作付
19	複数年契約加算	1	6,000	飼料用米・米粉用米	複数年契約の飼料用米・米粉用米の作付および生産性向上の取組(多収性品種の作付・排水対策など)

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができます。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

産地交付金のうち助成対象とする作物(品種)一覧

作物及び品種名	
1 野菜	あさつき
2	アスパラガス (グリーン)
3	アスパラガス (ホワイト)
4	アスパラガス (紫)
5	いちご
6	いんげん
7	うり
8	エゴマ
9	えだまめ
10	オクラ
11	カイラン
12	かぶ
13	かぼちゃ
14	カリフラワー
15	かんしょ
16	きのこ
17	キャベツ
18	きゅうり
19	ぎょうじやにんにく
20	クレソン
21	ケール
22	ゴーヤ
23	こまつな
24	こもちかんらん
25	ささげ
26	さつまいも
27	さといも
28	サニーレタス
29	さやいんげん
30	さやえんどう
31	サラダ菜
32	サンチュ
33	ししとう
34	しそ
35	しゅんぎく
36	しょうが
37	食用ハーブ
38	食用ゆり(ゆりね)
39	シロウリ
40	しろ菜
41	スイートコーン
42	すいか
43	ズッキーニ
44	スナップエンドウ
45	せり
46	セルリー
47	そらまめ
48	ソルトリーフ
49	タアサイ
50	だいこん
51 野菜	たいな
52	たまねぎ
53	チコリ
54	ちんげんさい
55	テンダーポール (花ニラ)
56	とうがらし
57	冬瓜
58	トマト
59	ながいも
60	なす
61	なた豆
62	菜花
63	なんばん
64	にがうり
65	にら
66	にんじん
67	にんにく
68	にんにくの芽
69	ねぎ
70	野沢菜
71	はくさい
72	パセリ
73	花みょうが
74	パプリカ
75	ばれいしょ (生食用、加工用、種子用)
76	ピーマン
77	広島菜
78	ブロッコリー
79	ベビーリーフ
80	ほうれんそう
81	まくわうり(カンロ)
82	実えんどう(グリーンピース)
83	みずな
84	みつば
85	実取りカラシ
86	ミニかぼちゃ
87	ミニトマト
88	みょうが
89	メロン
90	モロヘイヤ
91	ヤーコン
92	山ごぼう
93	大和芋
94	やまのいも
95	山わさび
96	ゆりね
97	落花生
98	らっきょう
99	ラディッシュ
100	リーキ(ポワロ)

産地交付金のうち助成対象とする作物(品種)一覧

作物及び品種名		作物及び品種名	
101	野菜	151	花き
102	ルッコラ	152	菊アスター(キク科)
103	ルバーブ	153	切葉類
104	レタス	154	キャラウェイ
105	わさび	155	キャンディタフト
	わさびだいこん		金風車(キク科)
106	花き	156	きんぎよそう
107	アイリス	157	クジャクソウ
108	アゲラタム	158	グラジオラス
109	アザミ	159	グラスペディア
110	アジサイ(切枝)	160	クリスマスローズ
111	アスクレピアス	161	クレマチス
112	アスター	162	グロリオーサ
113	アスチルベ	163	けいとう
114	アストランチャ	164	小菊
115	アスパラガス(観賞用)	165	コスモス
116	アトランティアマヨール	166	コティナス
117	アナベル(切枝)	167	コデチャ
118	アネモネ	168	コデマリ
119	アマランサス	169	コワニー(ユリ科)
120	アリウム	170	サイネリア
121	アリストロメリア	171	サクラ(切枝)
122	アルケミラ	172	桜小町
123	アルブカ	173	サクラソウ
124	アロニア(切枝)	174	サリクトラム
125	イキシア	175	サンダーソニア
126	イタリアンルスカス	176	シオン(キク科)
127	インパチェンス	177	シクラメン
128	ウイキョウ	178	ジニア
129	ウインターグラジオラス	179	シモツケ
130	うばゆり(ユリ科)	180	シャクヤク
131	ウメモドキ(切枝)	181	宿根デージー
132	エキノプシス	182	ショウブ
133	エボタ	183	シレネ
134	エリンジウム	184	白妙菊
135	エレムルス	185	シンフォリカルフォス(切枝)
136	オオデマリ(切枝)	186	スイートピー
137	オーニソガラム	187	スイセン
138	オダマキ	188	スカビオサ
139	オレガノ	189	スキミア
140	カーネーション	190	スズメウリ
141	ガーベラ	191	スズラン
142	カキツバタ	192	スターチス
143	カスミソウ	193	スタキス
144	かぼちゃ(観賞用)	194	ステイパ
145	ガマ(ガマ科)	195	ストック
146	カラー	196	ストロベリーコーン
147	カンゾウ	197	ストロベリースティック
148	カンパニュラ	198	スナップ
149	きいちご(観賞用)(切枝)	199	スノーボール(切枝)
150	ギガンジウム	200	スピードリオン
	キク		

産地交付金のうち助成対象とする作物(品種)一覧

作物及び品種名		作物及び品種名	
201	花き	251	花き
202	スモークグラス	252	ヒメヒコダイ
203	スモークツリー(切枝)	253	ヒメヒマワリ
204	スモグソウ	254	ヒヤクニチソウ
205	セダム	255	ピンピネラ
206	セファロフォラ(加工用)	256	フェンネル
207	ゼラニウム	257	フサスグリ(切枝)
208	セロシオ	258	ふじなでしこ
209	セントーレアオリエンタリス	259	フジバカマ
210	千日紅	260	ブッチャーニ(ウリ科)
211	センニチソウ	261	ブプレウルム
212	ソリダコタラ	262	フリージア
213	ソリダスター	263	ブルースプレー
214	ダイアンサス	264	ブルビネラ
215	大根草	265	フロックス
216	ダスティーミラー	266	ベコニア
217	ダリア	267	ベチュニア
218	チドリソウ	268	ベニバナ(カルタムス)
219	チューリップ	269	ヘリクリサム
220	チョコレートコスマス	270	ヘレニューム
221	ツルウメモドキ(切枝)	271	ペロニカ
222	てまり草	272	ポインセチア
223	テマリシモツケ	273	ホオズキ
224	デルフィニウム	274	ボタン
225	とうがらし(観賞用)	275	ホトトギス
226	トリカブト	276	マーガレット
227	トリトマ	277	マトリカリア
228	トルコギキョウ	278	マンサク
229	トロリウス	279	ミズヒキ
230	ナス(観賞用)	280	ミナズキ(切枝)
231	ナデシコ	281	ムギ(観賞用)
232	ナナカマド(切枝)	282	ムスカリ
233	ナルコユリ	283	紫式部(切枝)
234	ニゲラ	284	メコノブシス
235	ネマヘラソウ	285	メロン(観賞用)
236	ネムリヒメ(アヤメ科)	286	モナルダ
237	ネリネ	287	モルセラ
238	バイカウツギ(切枝)	288	ヤナギ(切枝)
239	ハス	289	ヤマゴボウ
240	とうきび(観賞用)	290	山ブドウ(ブドウ科)
241	ハナナス	291	ユーカリ
242	パニカム	292	ユーストマ
243	パプチシア	293	ユーパトリウム
244	ハボタン	294	ユーホルビア
245	バラ	295	ユキヤナギ(バラ科)
246	バラ実もの(切枝)	296	ユリ
247	パンジー	297	洋ラン類
248	ビオラ	298	ラーケスパー
249	ビブルナム	299	ライラック(切枝)
250	ヒペリカム(切枝)	300	ラナンキュラス
	ヒマワリ		

産地交付金のうち助成対象とする作物(品種)一覧

作物及び品種名		作物及び品種名	
301	花き	351	花木
302	ラベンダー	352	(観賞用樹木)
303	ラムズイヤー	353	スノーボール
304	リアトリス	354	ツゲ系
305	リナリア	355	ツツジ
306	リオン	356	ナナカマド
307	リシマキア	357	バラ実もの
308	リンゴ(観賞用)(切枝)	358	ヒバ系
309	リンドウ	359	ヒペリカム
310	ルドベキア	360	ブルーベリー(観賞用)
311	ルリタマアザミ	361	花木
312	レースフラワー	362	(観賞用樹木)
313	ローズマリー	363	モミジ
314	ロマネスコ	364	ユーカリ
315	ワレモコウ	365	ライラック
316	利休草	366	雑穀
317	果樹	367	あわ
318	りんご	368	亜麻
319	ぶどう	369	ひえ(アマランサスを含む)
320	なし	370	きび類
321	もも	371	ハトムギ
322	おうとう	372	子実用えん麦
323	くり	373	たかきび(こうりやん)
324	うめ	374	八列とうきび
325	すもも	375	子実用とうもろこし
326	ブルーベリー		エゴマ(搾油用に限る)
327	カーランツ(ふさすぐり)		
328	グーズベリー(すぐり)		
329	ハスカップ(クミノウカイシカゲラ)		
330	プルーン		
331	マルメロ		
332	アロニア		
333	ラズベリー		
334	銀杏		
335	きいちご		
336	くるみ		
337	花木		
338	(観賞用樹木)		
339	アジサイ		
340	アナベル		
341	アロニア		
342	イチイ		
343	ウメモドキ		
344	エニシダ		
345	オオデマリ		
346	カイヅカイブキ		
347	かえで		
348	カリンズ		
349	きいちご(観賞用)		
350	金宝樹		
	コティナス		
	サクラ		
	サツキ		
	サンゴミズキ		